「孤立解消に、住民のつながりを強めてほしい」と訴える西智弘さん（高知市の県立大永国寺キャンパス）

人とつながって健康に

医師が「社会的処方」講演

高知市

薬を使わず、住民同士のつながりを深めて元気になることを目指す「社会的処方」を実践する川崎市の一般社団法人「プラスケア」代表理事の西智弘さん(43)がこのほど、高知市内で講演し、「社会的処方を地域の文化にしよう」と呼び掛けた。

高知県立大学の公開講座。病院医師の西さんは、がん患者らが長い治療期間中に社会から特別視されて孤立することで、人生を前向きに考えられなくなる実情を知り、2017年に「医療者らに悩みを気軽に話せる場を」と取り組み始めた。社会的処方は英国発祥の概念で、人々がつながり、交流や活躍の機会を得ることで孤独や孤立の解消を目指している。

西さんは16日の講演で、「ジャズ演奏が好きな人なら、発表の場をみんなでつくればいい。住人も巻き込んで一緒にやることが重要だ」と強調した。

医療は治療による改善を目指すが、パーキンソン病など対処が難しい場合も。そんな時でも「病気を受け入れることができれば、治療で完治したのと同じだ」とし、「人生を前向きに生きられる」と説いた。

医療者とボランティア、趣味などのコミュニティーをつなぐ人も重要だと指摘。そのためにも「地域の住人同士が横のつながりを強め、活動の場をつくってほしい」と訴えた。

（相良平蔵）

2024年3月20日（水）　高知新聞掲載記事